

「新しい東北」官民連携推進協議会

令和元年度  
宮城県意見交換会(第1回)

事務局提出資料

「新しい東北」官民連携推進協議会事務局  
2019年6月13日

# ● 目次

---

1. 今年度の意見交換会の方向性
2. 過去の意見交換会
3. 今年度の意見交換会の進め方
4. 議論のテーマ案
5. テーマに関する詳細検討事項

【参考】岩手県のテーマ案

【参考】福島県のテーマ案

# ● 1. 今年度の意見交換会の方向性

本協議会では意見交換会を、復興庁と会員団体等（主に副代表団体）が活動情報を互いに共有し、地域の課題解決に向けて協議・協働を生み出す場と位置付けています。

今年度は特に、副代表団体以外の会員団体の巻き込み・議論の活性化・団体の活動につながる成果創出に注力します。

意見交換会の目的	意見交換会の取組に対するご意見 <sup>*1</sup>
復興庁と会員団体等（主に副代表団体）が活動情報を共有し合うとともに、地域の課題解決に向けた、多様な主体による協議・協働を生み出すこと	<ul style="list-style-type: none"><li>民間のパワーを巻き込み、関連するものを具体的なテーマとして扱えると良い</li><li>アイディアだけでなく具体的なアクションに繋げたい</li><li>地域でチャレンジをしている人を、各会員の持つ支援メニューを活用してサポートするスキームが必要</li><li>地域振興に携わる方等にも関与してもらえると良い</li></ul>

## 実施上のポイント

会員団体の巻き込み  
(横の連携)

議論のさらなる活性化

団体の活動につながる  
成果の創出

## 令和元年度 意見交換会の方向性

- ✓ テーマに関する会員団体（「連携対象団体」）に意見交換会へ参加してもらい、地域課題解決に向けた議論や「実践の場」の企画に共同で取り組む。
- ✓ 参加団体<sup>\*2</sup>や連携対象団体の活動をより深め・広げるための活動を「実践」と定義し、意見交換会の成果として自立的・継続的な「実践」を生み出す。

\*1: 3県の第3回意見交換会内の発言を一部引用

\*2: 副代表団体およびオブザーバーとして参加いただく団体

## ● 2. 過去の意見交換会

過去2年間の意見交換会では「ソーシャルセクターとの連携」をテーマの軸に議論を展開。今年度以降に向けては、取組地域の再検討や昨年挙がったアイディアをもとにしたアクションの具体化、外国人労働者に対する支援などがテーマ案として挙がっておりました。

平成29年度

コミュニティづくり、ソーシャルセクター

第1回

- ・趣旨説明
- ・活動紹介

第2回

- ・活動紹介
- ・テーマ議論

第3回

- ・活動紹介
- ・テーマ議論

第4回

- ・活動紹介
- ・調査内容の検討

「NEW TOHOKU PITCH Vol.0」  
ソーシャルセクターによる「新しい東北」  
創出のビジネスモデル等をピッチ形式で議論

第5回

- ・活動紹介
- ・調査結果を議論
- ・来年度テーマの検討

平成30年度

セクター間連携による地域課題解決

第1回

- ・趣旨説明
- ・活動紹介
- ・当年度のテーマの検討

第2回

- ・活動紹介
- ・テーマ議論
- ・イベント内容の検討

「南三陸をつなげる30人」  
フューチャーセッションを通じて、南三陸の  
将来像や、課題解決に向けたセクター間連携  
の在り方を検討。

第3回

- ・活動紹介
- ・イベントの振り返り
- ・来年度以降のテーマ案検討

今年度以降のテーマ案

- ・取組地域の再検討（南三陸で  
継続実施 or 別地域に展開）
- ・「南三陸をつなげる30人」の  
アイディアをもとにした、今後  
の具体的なアクションの検討
- ・外国人労働者の支援等に関する  
企業・NPOの協働策

### ● 3. 今年度の意見交換会の進め方

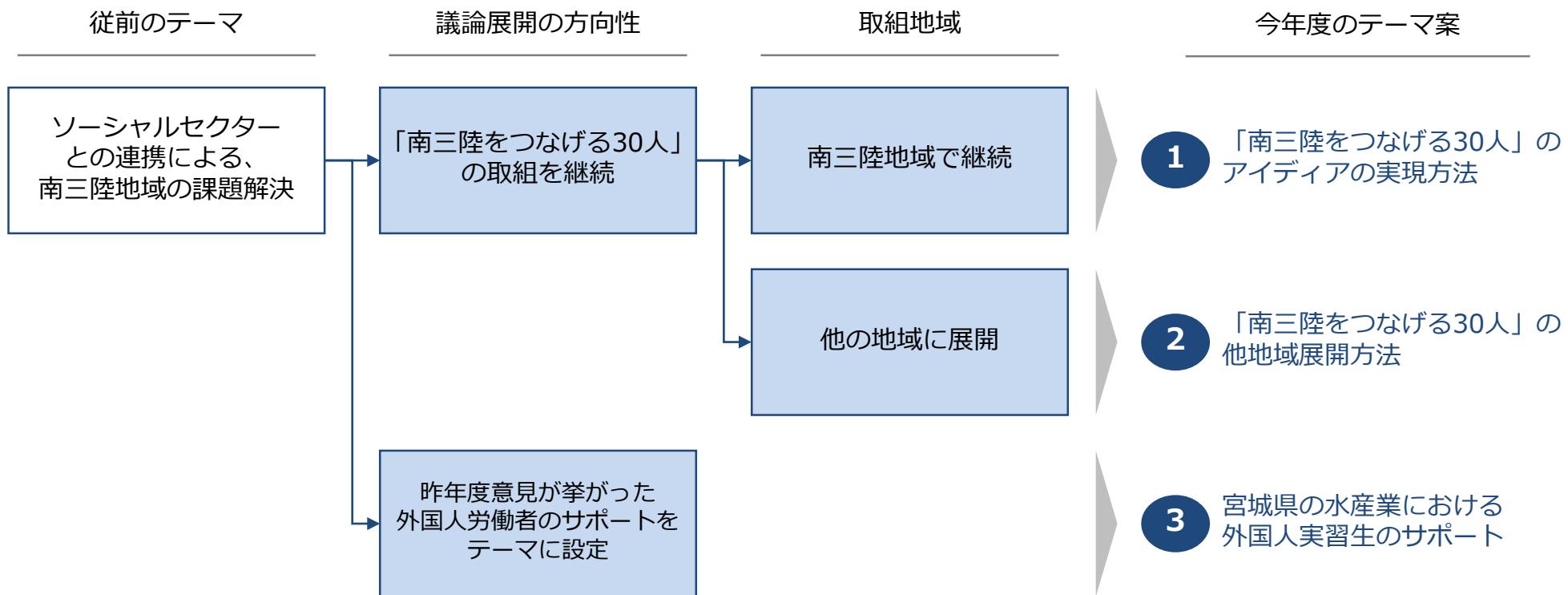
昨年度同様、全3回の意見交換会と「実践の場」を開催予定です。

テーマに関わりの深い「連携対象団体」に第2回の議論から参画いただくことで、地域でチャレンジしている人を巻き込んだ「実践の場」の企画や、「実践」の継続を目指します。

	実施事項（案）	取り組みのポイント
第1回	<ol style="list-style-type: none"><li>意見交換会の趣旨、過去経緯（他県含む）の説明</li><li>今年度の方針説明</li><li>参加団体の今年度活動内容の紹介</li><li>今年度テーマの検討（連携対象団体の検討含む）</li></ol>	<ul style="list-style-type: none"><li>✓ テーマを決定するとともに、第2回以降から参画してもらう連携対象団体についても議論する</li></ul>
第2回	<ol style="list-style-type: none"><li>参加団体の活動紹介</li><li>連携対象団体によるプレゼンテーション等</li><li>テーマ議論</li><li>「実践の場」の内容検討（連携対象団体を企画時から巻き込む）</li></ol>	<ul style="list-style-type: none"><li>✓ 連携対象団体より、現在の活動内容やテーマに対する問題意識・展望などについて共有してもらう</li><li>✓ 上記を踏まえて、地域でチャレンジをしている人を巻き込んだ「実践の場」や連携の在り方を議論する</li></ul>
	「実践の場」の詳細設計～開催～結果整理	<ul style="list-style-type: none"><li>✓ 会員団体の生業（活動）を深化・拡大させることや、継続的なアクションに繋げることを目的とする</li></ul>
第3回	<ol style="list-style-type: none"><li>参加団体の活動紹介</li><li>「実践の場」の振り返り、今後の展望の議論</li><li>来年度以降のテーマ案の検討</li></ol>	<ul style="list-style-type: none"><li>✓ 「実践の場」の振り返りに加え、今後の活動や体制を、自立的に継続させるための議論を行う</li></ul>
	「実践」の継続	<ul style="list-style-type: none"><li>✓ 今年度の意見交換会終了後も、「実践」を継続する</li></ul>

## ● 4. 議論のテーマ案

従前の議論を引き継ぎつつ、昨年度挙がったご意見を踏まえて、事務局素案として以下3案をご提案します。



## ● 5. テーマに関する詳細検討事項

テーマに対して具体的に議論できるよう、背景・狙いや連携対象団体の候補についてご意見を頂きたく存じます。

### 1 「南三陸をつなげる30人」のアイディアの実現方法

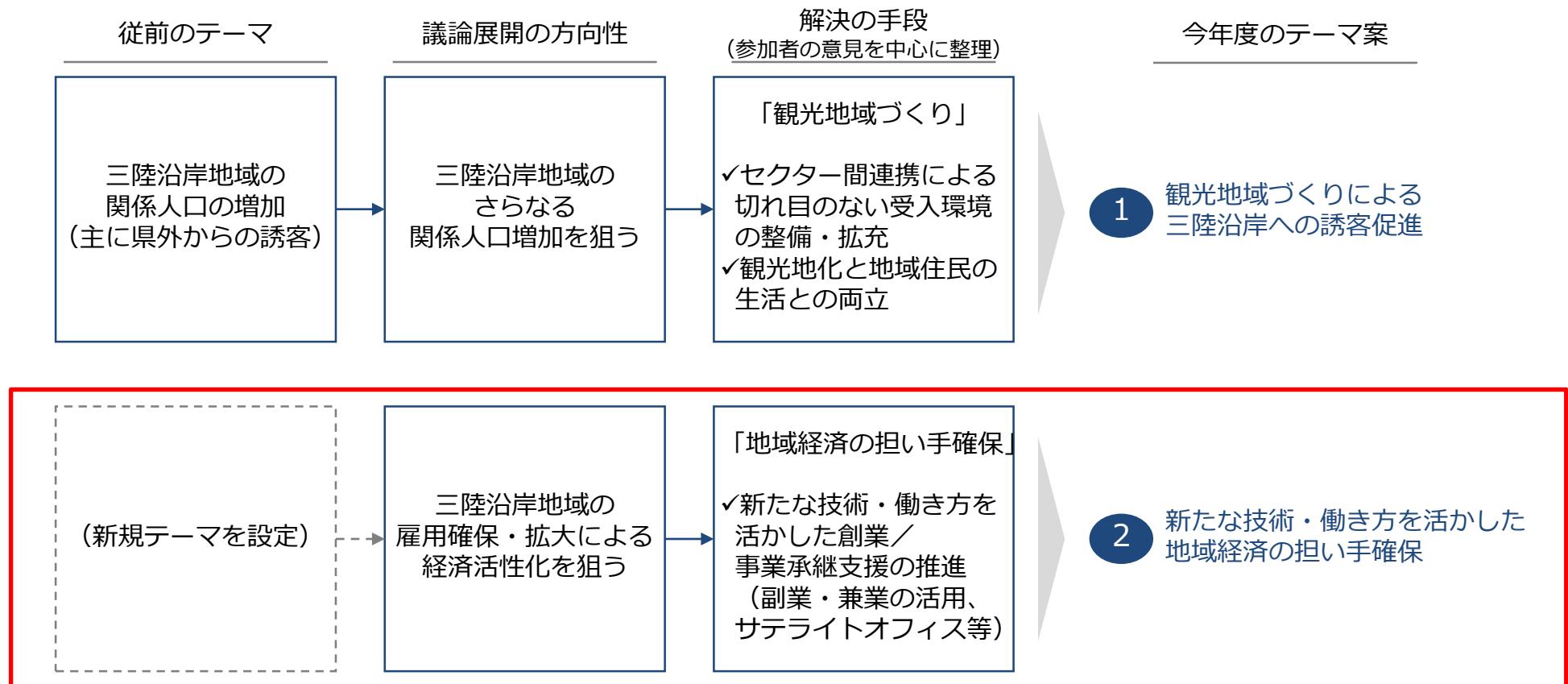
### 2 「南三陸をつなげる30人」の他地域展開方法

### 3 宮城県の水産業における外国人実習生のサポート

テーマ設定背景	・「南三陸を～」にて7つのアイディアを検討。参加者からは次のアクションを起こすことが重要、との意見あり。	・南三陸以外にもセクター間連携を通じた課題解決を必要とする地域が存在	・水産業等の人材不足対応策として、県内に外国人労働者（特に実習生）が急増
狙い	「南三陸を～」開催後の変化を確認した上で、今後のアクションを具体化し、継続的な活動に繋げることを目指す。	南三陸以外の地域でも、当該取組を通じて現地で活動する団体に気づきを与え、県の復興・創生の加速に貢献する。	外国人労働者にとっても住みやすい・働きやすい地域づくりを考え、セクター間連携により実現することを目指す。
連携対象団体（イメージ）	・昨年度の参加者（企業・NPO・行政など）	・地域づくりを担う地元の企業・NPO、および支援可能性のある域外企業等・自治体	・水産業、水産加工業等の企業・外国人サポート等を担うNPO・自治体
実践の場（イメージ）	「まるごと環境教育のまち」のアイディアをもとに、県外の人向けのスタディツアーを企画するワークショップを実施。	「南三陸を～」と同様のワークショップを、他地域で実施。	外国人実習生のサポートに焦点を当て、「セクター間で補い合う暮らしやすい環境づくり」を考えるワークショップを実施。
成果（イメージ）	・実践の場で企画したスタディツアーの内容を自治体の既存取組等に活かし、実施する。	・ワークショップで明確化した、当該地域の将来像・課題をもとに、参加者がゆるやかに連携しながら、各団体の活動に活かしていく。	・ワークショップで明確化した、当該地域の将来像・課題をもとに、参加者がゆるやかに連携しながら、各団体の活動に活かしていく。
論点	・実施対象のアイディア	・取組地域（石巻・気仙沼等の沿岸部 or 内陸部） ・昨年度の振り返りを踏まえた、ワークショップの改善点	・昨年度の振り返りを踏まえた、ワークショップの改善点

## ● 【参考】 岩手県のテーマ案

岩手県では、三陸沿岸地域の経済活性化を狙い、「新たな技術・働き方を活かした地域経済の担い手確保」のテーマに沿って検討する予定です。



テーマ案②に沿って検討

## ● 【参考】福島県のテーマ案

福島県では、今年度も「福島県での暮らし方・働き方に関する理解促進（魅力付け）」をテーマに据え置き、議論する予定です。

